

令和6年度原子力施設等防災対策等委託費（電子飛跡検出型コンプトンカメラを使用した放射性プルームの可視化手法の検討）事業に係る入札可能性調査実施要領

令和6年1月11日
原子力規制庁
長官官房放射線防護グループ
監視情報課

原子力規制庁では、令和6年度原子力施設等防災対策等委託費（電子飛跡検出型コンプトンカメラを使用した放射性プルームの可視化手法の検討）事業の受託者選定に当たって、一般競争入札（価格及び技術力等を考慮する総合評価方式）に付することの可能性について、以下のとおり調査します。

つきましては、下記1．事業内容に記載する内容・条件において、的確な事業遂行が可能であり、かつ、当該事業の受託者を決定するに当たり一般競争入札（価格及び技術力等を考慮する総合評価方式）を実施した場合、参加する意思を有する方は、2．登録内容について、5．提出先までご登録をお願いします。

1. 事業内容

(1) 概要

原子力規制庁では、原子力災害の発生に備えて有人の航空機によるモニタリングシステムの維持管理を行うとともに、将来的に無人航空機等によるモニタリングを導入することを目標として要素技術の開発を行ってきた。ドローンをはじめとした無人航空機等を活用したモニタリングは放射性プルームの観測等において有用であると期待される一方で、これらはその性質上長時間の連続稼働が困難であり、無人航空機等による有効な緊急時モニタリングを実施するためには放射性プルームの放出及び挙動を観測し、これに応じて飛行を行う必要がある。

本事業では、無人航空機等による緊急時モニタリングの実効性向上のため、電子飛跡検出型コンプトンカメラ（ETCC）を用いた放射性プルームの可視化手法についてシステムの構成を検討し、最終的にETCCによる放射性プルーム可視化手法を緊急時モニタリングへ適用することの可否を検証することを目的とする。

(2) 事業の具体的内容

別紙のとおり

(3) 事業期間

委託契約締結日から令和7年3月14日まで

(4) 応募要件

- ① 予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であつて、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。
 - ② 予決令第71条の規定に該当しない者であること。
 - ③ 令和04・05・06年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」の「A」、「B」又は「C」の等級に格付されている者であること。
 - ④ 原子力規制委員会からの補助金交付等停止措置又は指名停止措置が講じられている者ではないこと。
- ※その他、別紙を参照すること。

2. 登録内容

- ① 事業者名
- ② 連絡先（住所、TEL、E-mail、担当者名）

3. 留意事項

- ・登録後、必要に応じ事業実施計画等の概要を聴取する場合があります。
- ・本件への登録に当たっての費用は事業者負担になります。
- ・本調査の依頼は、入札等を実施する可能性を確認するための手段であり、契約に関する意図や意味を持つものではありません。
- ・提供された情報は省内で閲覧しますが、事業者に断りなく省外に配布することはありません。
- ・提供された情報、資料は返却しません。

4. 公募期間

令和6年1月11日（木）～令和6年1月22日（月）

※郵送の場合は「令和6年1月22日（月）必着」でお願いします。

5. 提出先

郵送またはE-mailにてご提出願います。

【提出先】 〒106-8450 東京都港区六本木1-9-9
原子力規制庁長官官房放射線防護グループ

監視情報課 笹平 琳子 宛て

【TEL】 03 - 5114 - 2125

【E-mail】 sasahira_rinko_5tb@nra.go.jp

(登録例)

令和6年〇月〇日

原子力規制委員会
原子力規制庁放射線防護グループ
監視情報課

令和6年度原子力施設等防災対策等委託費（電子飛跡検出型コンプトンカメラを使用した放射性プルームの可視化手法の検討）事業について

令和6年1月11日付、標記実施要領に従い、以下の事項を登録します。

登録内容

- ① 事業者名 ○○
- ② 連絡先
 - 住所 ○○
 - TEL ○○
 - Mail ○○
 - 担当者名 ○○

実施計画書（仕様書）

1. 事業名

令和6年度原子力施設等防災対策等委託費（電子飛跡検出型コンプトンカメラを使用した放射性プルームの可視化手法の検討）事業

2. 事業目的

原子力規制庁では、原子力災害の発生に備えて有人の航空機によるモニタリングシステムの維持管理を行うとともに、将来的に無人航空機等によるモニタリングを導入することを目標として要素技術の開発を行ってきた。ドローンをはじめとした無人航空機等を活用したモニタリングは放射性プルームの観測等において有用であると期待される一方で、これらはその性質上長時間の連続稼働が困難であり、無人航空機等による有効な緊急時モニタリングを実施するためには放射性プルームの放出及び挙動を観測し、これに応じて飛行を行う必要がある。

本事業では、無人航空機等による緊急時モニタリングの実効性向上のため、電子飛跡検出型コンプトンカメラ（ETCC）を用いた放射性プルームの可視化手法についてシステムの構成を検討し、最終的に ETCC による放射性プルーム可視化手法を緊急時モニタリングへ適用することの可否を検証することを目的とする。

3. 事業内容

ETCC を用いた放射性プルームの可視化手法について、本年度においては（1）既存の ETCC を環境放射線モニタリングで使用するために必要な改造の実施（2）システム構成の検討の2項目を実施する。

事業の実施にあたっては、以下に示す項目について作業を実施すること。

（1）環境放射線モニタリング用 ETCC の改造

既存の ETCC を環境放射線モニタリングで使用するにあたり、必要となる以下の事項について検討し改造及び試験を行う。

- ・屋外での長期安定作動を目的とした耐候性獲得及び連続稼働時間の延長
- ・データ解析、結果出力等の自動実行機能や計測システムの操作インターフェイスなどのソフトウェア導入

（2）ETCC の最適な配置検討

様々な気象条件や放出状況を想定し、放射性プルームを観測するために最適な ETCC の台数及び配置を検討する。なお、各気象条件及び放出状況には少なくとも以下を含めること。

- ・大気安定度：安定、中立及び不安定の3パターン
- ・放出状況：スタック放出、建屋放出及び爆発による放出の3パターン

（3）業務報告及び打ち合わせの実施

原子力規制庁担当官に対して事業の進捗状況を適宜報告し、漏れのないように本実施計画書の内容を遂行すること。進捗報告等のための打合せは、原子力規制庁本庁もしくはオンライン会議で実施することとし、事業実施中に最低3回程度（業務開始時、中間報告、最終報告）の打合せを想定する。

4. 納品物

調査報告書8部及び業務報告書の電子媒体（CD-ROM等）2式

5. 納品場所

原子力規制庁長官官房放射線防護グループ監視情報課

6. 委託業務実施期間

契約締結日～令和7年3月14日

7. 守秘義務

受託者は、本委託業務の実施で知り得た非公開の情報を如何なる者にも漏洩してはならない。受託者は、本委託業務に関わる情報を他の情報と明確に区別して、善良な管理者の注意をもって管理し、本委託業務以外に使用してはならない。

8. 情報セキュリティの確保

受託者は、下記の点に留意して情報セキュリティを確保するものとする。

- (1) 受託者は、受託業務の開始時に、受託業務に係る情報セキュリティ対策とその実施方法及び管理体制について原子力規制庁担当官に書面で提出すること。
- (2) 受託者は、原子力規制庁担当官から要機密情報を提供された場合には、当該情報の機密性の格付けに応じて適切に取り扱うための措置を講ずること。
また、受託業務において受託者が作成する情報については、原子力規制庁担当官からの指示に応じて適切に取り扱うこと。
- (3) 受託者は、原子力規制委員会情報セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ対策の履行が不十分と見なされるとき又は受託者において受託業務に係る情報セキュリティ事故が発生したときは、必要に応じて原子力規制庁担当官の行う情報セキュリティ対策に関する監査を受け入れること。
- (4) 受託者は、原子力規制庁担当官から提供された要機密情報が業務終了等により不要になった場合には、確実に返却し又は廃棄すること。
また、受託業務において受託者が作成した情報についても、原子力規制庁担当官からの指示に応じて適切に廃棄すること。
- (5) 受託者は、受託業務の終了時に、本業務で実施した情報セキュリティ対策を報告すること。

(参考) 原子力規制委員会情報セキュリティポリシー
<https://www.nra.go.jp/data/000129977.pdf>

9. その他

本仕様書に明記されていない事項がある場合又は本仕様書の内容に疑義が生じた場合は、受託者はその都度、原子力規制庁担当官と協議して決定することとし、受託者の一方的な解釈により処理しないこと。

受託者が一方的に解釈して処理した場合は、受託者の責任のもとに費用負担を含め、これを改めること。

以 上